

# NANAプロジェクト軸に 研究活動 芸・丸茂 美恵子(祐佳)教授

舞踊家であり舞踊学研究者に置くが、国際化の時研究者として歩んできた集大成として立ち上げたのが「NANAプロジェクト」。この拠点を軸に研究活動を加速させている。NANAとは、日本大学芸術学部「NUA」と日本舞踊とアジアの舞踊の「Nichi dance」の頭文字で、



国立韓国芸術総合学校舞踊院でのサマースクール(左端が丸茂教授。ソウル)

## 学校教育に日舞の導入を 日舞の科学的実証の難題に挑む

15歳で名取に。舞踊家へ一直線だった丸茂教授の転機は高校二年のとき。バレエの先生から厳しい稽古を受け我慢強さがあります。二つ目は、日舞を指導する教育機関での意識調

査を行い、日舞を学校教育に位置づけること。三つ目は、アジア諸国の伝統舞踊を収録することでアジア地域への舞踊の記録保存の重要性を啓発し、より高度な舞踊家の養成を目標としています。四歳から日舞を習い始めた丸茂教授は「舞踊は一生バレエに携わりたいので、大学で理論も学んでおきたい、というものが、しっかりした考えにびっくりしました」



APPAN(Asia-Pacific Performing Arts Network)国際フェスティバルで発表する丸茂教授(左から3人目。インド・リシュケシュ)

丸茂美恵子(まほろみ) かけて刊行。著書・論みえ(昭和52年芸術学部演劇学科卒。東京芸能テレビ番組の解説立文化財研究所芸能部調査員を経て、本学非常勤講師に。平成19年芸術祭「舞踊部門」審査委員。博士(芸術学)。西川流など流派の「流史」を1冊3~4年を

### プロフィール

する。か。「Nihon Buyo」なのか「Japanese Traditional Dance」なのか。昨年ニューヨークで研究発表を行った。「NOH」や「ABUKI」(歌舞伎)を解する欧米人が多くなっており、歌舞伎をルーツとする日舞も下手なもの年々広がりつつある。

# モノの使いやすさに関する 人間工学的研究 生産工・堀江 良典教授



「右利きの人には左利きの人を使いにくさが分からない」と話す堀江教授

専門分野の人間工学は、現在の社会情勢では人間から見たモノの視点(心理学)と工学が結びついた複合的学問である。と、堀江教授は話す。

「モノ」とは人間工学が注目されていく。目に見えないモノだけにとどまらず、人の要求するモノに関する人間工学的研究にも含まれる。つまり「安全な社会をつくり、人々の健康で快適な生活に寄与することが研究の主な目的となる。」

「使いやすい」とは、モノの使いやすさを、その「使いやすい」モノは、その尺度を判別するのが極めて難しい。「現在、多くの快適で使いやすい商品が開発されていますが、それは使いにくいモノを開発しているに過ぎません」と話す。

## 人にやさしいモノづくり 快適さの基準を明確化 使いやすさの判断は難しい

「紙に描いた線を両方のハサミを使って切ってみてください」。実はこのハサミ、形はまったく同じだが、右利き用と左利き用とがあり、平均値をもとに作られる。そのため、使いにくい。現在、左利きの人全体の5%程度に過ぎない。



ゼミのモットーは「明るく、楽しく、元気良く」

### 人脈づくりを重視

「紙に描いた線を両方のハサミを使って切ってみてください」。実はこのハサミ、形はまったく同じだが、右利き用と左利き用とがあり、平均値をもとに作られる。そのため、使いにくい。現在、左利きの人全体の5%程度に過ぎない。

### プロフィール

堀江良典(ほりえ・よしのり)昭和44年生産工学部管理工学科卒。日賞を受賞。主な著書に「人間工学ハンドブック」(朝倉書店)「健康をつくる住環境」(井上書院)など。趣味はヨットで、理工系ヨット部顧問でもある。